

各 位

2017年12月5日
近江鉄道株式会社

12月16日（土） 近江鉄道ミュージアムに勢ぞろい
「近江鉄道電気機関車特別イベント」を開催！
～電気機関車の老朽化にともない順次解体いたします～

- ED31形に貨車・工事用車両を連結し、現役当時の姿を再現！
- ED31形で汽笛とブレーキ操作体験ができます！（先着80名様、要整理券）
- 電気機関車をモチーフとした記念グッズを先行発売！

近江鉄道株式会社（本社：滋賀県彦根市、代表取締役社長：喜多村 樹美男）では、2017年12月16日（土）に近江鉄道ミュージアム鉄道資料館（彦根駅東口すぐそば）にて「近江鉄道電気機関車特別イベント」を開催いたします。

当社では現在、電気機関車10両を彦根駅構内に留置しておりますが、電気機関車の老朽化に伴い当社では継続的な保存が困難であるため、順次電気機関車を解体する運びとなりました（2017年12月中にED311、ED312、ED315が解体予定）。

今回のイベントでは解体される前に、その勇姿を多くの方々にご覧いただけるように企画いたしました。

当日は、特別にミュージアム内に留置してある電気機関車の後部に貨物用車両「ワ」や工事用車両「ホキ・チ」を連結し、現役当時の姿を再現いたします。

今回のメインイベントは、ED31形で汽笛の鳴動とブレーキ操作を体験していただくことができます（先着80名様、要整理券）。普段は入ることも操作をすることもできない貴重な体験をお楽しみください。

その他にも、電気機関車をモチーフとした記念グッズを当イベントより先行発売いたします。

電気機関車が勢ぞろいする最初で最後の特別イベントです。ぜひその姿をご覧に近江鉄道ミュージアム鉄道資料館にお越しください。

詳細は別紙のとおりです。



近江鉄道で活躍した電気機関車（左：ED313 右：ED144）

〈会場〉近江鉄道ミュージアム鉄道資料館

【別紙】

「近江鉄道電気機関車特別イベント」について

1. 開催日時 2017年12月16日(土) 10:00~15:00
※雨天決行、荒天の場合中止(延期はありません)
2. 開催場所 近江鉄道ミュージアム鉄道資料館(彦根駅東口すぐそば)
3. 入場料 無料
4. 内 容
 - (1) **写真撮影会**
 - ミュージアム内に留置してある電気機関車の後部に貨物用車両「ワ」または工事用車両「ホキ・チ」を連結します。
 - 解体車両3両(ED311、ED312、ED315)はミュージアム外に留置してありますので彦根駅構内を一部開放します。
 - (2) **汽笛鳴動体験・ブレーキ操作体験(ED31形を使用)**
 - 先着80名さま(各回20名さま)
 - 体験時間 ①11:00 ②12:00 ③13:00 ④14:00
※10:00より近江鉄道資料館前にて全体験時間の整理券を配布します。
※開場前に列形成をおこないます。
※整理券は1名さまにつき1枚配布します。
※ブレーキ操作はブレーキ音をお楽しみいただけます。
 - (3) **記念グッズ先行発売**
 - 「ED31形・ED14形 電気機関車キーホルダー」
発売金額 各500円(税込)
発売個数 各300個
※1名さま3個までの発売となります。**【記念グッズ一般発売】**
 - 発 売 日 2017年12月20日(水)
 - 発 売 場 所 米原駅、彦根駅、八日市駅、貴生川駅、近江八幡駅
通信販売
★通信販売についてはこちら
<http://www.ohmitetudo.co.jp/railway/event-ed/index.html/>
5. U R L 電気機関車特別イベント開催について
<http://www.ohmitetudo.co.jp/railway/event-ed/index.html/>
6. お客さまからのお問合せ先
近江鉄道株式会社 鉄道部
TEL. (0749) 22-3303 (平日8:30~17:30)

【参考】

近江鉄道の電気機関車

近江鉄道の電気機関車は、1948(昭和 23)年 10 月に西武鉄道の EDI を借用したのが最初で、工場入換用や蒸気機関車の廃車代替、さらに砂利・セメント原料の輸送の増大に伴い、国鉄の廃車機等を譲り受けて順次増備し、戦前から貨物列車を引いていた電動貨車にとってかわり電気機関車が走り出しました。

当社の主な貨物輸送は、セメントの原石、石油、ビール、カーボンの原材料などの輸送があり、電気機関車はこれらの貨物列車をけん引し活躍していました。しかし、貨物や荷物の輸送にトラックが進出し、当社の貨物輸送も鳥居本・彦根間の日本石油のタンカー輸送を最後に 1988(昭和 63)年 3 月 12 日に廃止となりました。

ED31 形 (現在 5 両保有)

ED31 形は、1923(大正 12)年製造の凸型機です。

元伊那電気鉄道(現 JR 飯田線)出身で、同社が国鉄に買収されて 1952(昭和 27)年に ED31 形と改称された国産初期の古典機です。

国鉄では 1955(昭和 30)年から廃車が始まり、1955(昭和 30)年 12 月 1 日に ED315 が、1957(昭和 32)年 2 月 21 日に ED314 の順に払い下げを受けて、近江鉄道の主力機として走り始めました。

ED311・ED312 は 1955(昭和 30)年に西武鉄道に譲渡後、当社へは 1960(昭和 35)年 8 月 15 日入線しました。

ED313・ED314 は、武佐・近江八幡間の東洋カーボンの貨物列車として 1986(昭和 61)年 7 月 31 日まで、新八日市・近江八幡間の一般貨物列車として同年 10 月 30 日まで活躍しました。



ED311

※2017 年 12 月中に解体



ED312

※2017 年 12 月中に解体



ED315

※2017 年 12 月中に解体



ED313



ED314

ED14 形 (現在 4 両保有)

ED14 形は、1926(大正 15)年製造の箱型デッキ付電気機関車です。
国鉄(JR)東海道線を追われてからは中央線、仙山線などで主に貨物車両けん引に活躍しました。

当社ではセメント原石輸送に強力な電気機関車増備が必要とされ、1962(昭和 37)年 4 月 25 日認可により、ED14 形を譲り受けました。

ED141~144 は、当社に入線して以来、主に彦根(米原)・多賀間のセメント原石輸送専用車として貨物輸送廃止までの 25 年間走り続け、国鉄時代から通算すると 60 数年、ちょうど昭和の時代を走りつづけた電気機関車です。



ED141



ED142



ED143



ED144

ロコ 1101



※ED とは、国鉄で ED の「E」は電気(エレクトリック)の E、「D」は動軸が 4 軸(B は 2 軸、C は 3 軸、E は 5 軸)をあらわしています。